

ハクガン（カモ科） 全長67センチ

ハクガンは1900年代初頭までは東京湾などに多数飛来していたが、その後は数が減り続け、1930年以降は数年に1~2羽が記録されるだけに激減。1993年に日本とロシア、アメリカの研究者・機関と共同で、途絶えていたハクガンの渡りを復元させる事業を展開し、長い年月をかけ順調に数を増やしてきました。今年11月、大湊村で約2000羽の飛来が確認されるなど、爾来30年奇跡的な復活となりました。

11月21日、貴重なハクガン見たさに野鳥仲間20人で大湊村へ向った。

しかし、あの広大な田んぼから探し出すのは簡単ではありませんでした。農道で偶然にすれ違った野鳥の会のメンバーと、お互い二手に分かれて探し回ることにした。

するとまもなく見つかったと連絡があった。田んぼの畦道の陰になって見つかりにくい場所で休んでいた。細心の注意を払い、これ以上近づけないハクガンの群れまで約400メートル。2000羽の群れは左右二つのグループに分かれ、これほどの数を一目で眺めるのは初めてです。



上空にマガン、田んぼにはハクガンが見えます。

ハクチョウと比べハクガンの白さは際立っていて、雪のように輝いて見えます。望遠鏡でつぶさに眺めると、群れの中に2羽の青ハクガンが見つかった。いわゆるレア物で、首以外の体全体が茶褐色です。今年は5羽飛来していると言われている。



ハクチョウと似ているが翼の端が黒いので、区別されます。



左から2番目が、青ハクガン。後ろで翼を広げているのはヒシクイ。

グループの1人が首環の付いたハクガンを見つけました。

ほとんどのハクガンは餌を探しているか食べている最中で、頭は下げたままです。そのため首環が見えるのは、頭をもたげた一瞬だけ。緑色に白字で T02が読み取れます。貴重な標識鳥であることから、後日関係機関に問い合わせることにした。

絶滅危惧種に指定されるハクガンの中から、標識鳥と青ハクガンを見つけるなど、充実した観察会でした。



緑色の首環をした1羽が見つかった。



ハッキリと T02と読み取れます。山科鳥類研究所で装着した個体でした。